

# 孤立…キレる高齢者

## 暴行摘発10年で4倍超

傷害や暴行などで摘発される高齢者の数が、人口増加を上回るペースで急増していることが20日、国の統計から分かった。特に暴行の摘発は10年前から4倍超に激増。些細なトラブルから他人に手を出すケースが多発し、火炎瓶や爆弾などで無差別に他人を傷つける重大事件も起きている。専門家は、「キレる」高齢者が増えている背景に、社会の変化に伴う高齢者の「孤立」があると指摘する。

昨年3月、兵庫県加古川市の公園で、たばこのポイ捨てをとがめられた70代の男が「カッとした」として当時小学1年の男児の首を絞め、暴行容疑で逮捕された。東京都杉並区で同年8月、夏祭り会場に火炎瓶が投げ込まれた事件では、当時1歳の子供を含む男女16人が負傷。犯行後に自殺した当時68歳の男が「サンバ



高齢者の摘発人数の音がうるさい」などと知人に不満を漏らしていた。同年10月には、京都府舞鶴市で、電話を借りるため市民センターを訪れた70代の男が、申し出を断られて激昂し、ついで男性職員を殴る暴行事件があった。

刑法犯全体の認知件数が減少傾向にある中、こうした高齢者の刑法犯の摘発人数は高水準で推移。特に傷害や暴行などの粗暴犯は右肩上がり、平成28年版犯

罪白書によると、27年の摘発人数は傷害1715人、暴行3808人と10年前からそれぞれ約1・6倍、約4・3倍に増加した。これは同期間の高齢者の人口増加の割合(約1・3倍)を上回っている。

加齢による性格の変化について、新潟青陵大学大学院の確井真史教授(社会心理

学)は「大きく分けて思慮深く優しくなる『円熟化』と、感情の抑制が利かなくなる『先鋭化』の2つがある」と指摘。先鋭化する場合には、「感情を制御できずに些細なトラブルが暴力につながる」と説明する。

### 「ネットマネー」10月号きょう発売

月刊『ネットマネー』10月号(特別定価750円)が21日発売されます。特集は「最新8大テーマの爆上げ株150銘柄」。自動運転、ビッグデータ、IoT、有機EL、5Gなど市場の最新有望テーマと上がる株をマンガで解説します。別冊付録は「9月の超お買い得株主優待ベスト100銘柄」。総28分、10万円台以下で買える優待30銘柄付きです。他に「外国人が本気で上げる株100銘柄」「話題の100円投資ラクラク完全攻略」「サラリーマン大家の『副業感覚』投資術」など。発行・産経新聞出版。



外国人が本気で上げる株100銘柄」「話題の100円投資ラクラク完全攻略」「サラリーマン大家の『副業感覚』投資術」など。発行・産経新聞出版。